

学際的な研究や社会との共創における、責任ある研究活動の推進に関する調査

[科学技術振興機構ホーム\(Japan Science and Technology Agency\)](https://www.jst.go.jp/) > 学際的な研究や社会との共創における、責任ある研究活動の推進に関する調査

責任ある研究活動(Responsible Conduct of Research)の推進に向け、文部科学省が2014年に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を策定して以来、研究活動の不正行為等の防止に向けた環境整備が進められています。

一方で、多様化・複雑化する社会課題へ対応するため、さまざまな連携に基づく「学際性」のある研究や、行政やNGO/NPO、企業、市民などといったステークホルダーとの、学術界を越えた共創(=トランスディシプリナリー研究)による研究活動が、一層重視されています。

このように、分野や研究領域、そして学術界を越えて実施される研究活動が増えるなか、責任ある研究活動を実施するには、それぞれの分野・研究領域・セクターで前提とされていた研究のありかたに関する考え方や行動、決定の調整が必要な場面が出てくると想定されます。

そこで、本アンケート調査では、特に**学際的・共創的な研究における、責任ある研究活動の推進**に向けて、貴機関・組織が実施されている取組についてお尋ねいたします。また、現在懸念されていることや、将来を見据え取り組むべきとお考えの課題などについても、ぜひお教えてください。

アンケートは、自由記述の量にもよりますが、およそ20分前後でお答えいただける程度の内容となっております。アンケート回答者は、貴機関・組織の倫理委員、研究倫理審査委員、そのほか研究公正に関する活動のご担当者や関連業務のご担当者を想定しております。ご回答の内容は、機関・組織名が特定できないかたちでまとめ、今後の研究公正推進事業や関心をもつ研究者のかたがたにご利用いただける基礎情報

として広く公表させていただきます。ただし、研究公正の推進において先進的・特徴的な取り組みなどがございましたら、貴機関・組織名を出してご紹介してもよろしいかご相談させていただく場合がございます。ご協力いただいた機関・組織には、調査結果をまとめた報告書のご案内をさしあげます。

本調査に関するご意見やご質問がございましたら、アンケート終了時にご提示する問い合わせ先へ直接メール連絡をいただければ幸いです。

【アンケート回答期限】2022年3月13日(日)

※本アンケート調査は、PwCコンサルティング合同会社が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX)[\[1\]](#)の委託を受けて実施するものです。

[\[1\]](#) JSTの一組織として、社会課題の解決に資する成果の創出を目指した研究開発の推進事業を展開しており、研究者と「関与者」(ステークホルダー)の協働や、自然科学および人文・社会科学の知識を活用した研究開発等を支援しています。RISTEXウェブサイト：<https://www.jst.go.jp/ristex/>

アンケート内で使用する表現について

- ・**貴機関・組織**: ご回答いただく学協会を指します。
- ・**分野**: 学会名鑑の定義に準じた3分野(人文・社会科学、生命科学、理学・工学)を指します。
- ・**学術研究領域**: 学会名鑑の定義に準じた、上記3分野に紐づけられた研究領域(各学会で対象とする学術研究領域があります)を指します。

表示される質問項目について

・ご回答内容の組み合わせにより、表示されない質問項目がある場合がございます。また、一部分岐で設問構成も変わりますので、可能でしたら上からご回答ください。

貴機関・組織およびご回答者について

最初に、貴機関・組織について、そしてご回答者についてお尋ねします。

機関・組織名 **必須/Required**

ご回答者名 必須/Required

貴機関・組織における役職名 必須/Required

メールアドレス 必須/Required

確認のためもう一度入力してください。

パートI： 責任ある学際研究に向けた公正な研究活動の推進について

以下では、責任ある学際研究の実施に向けて、貴機関・組織として実施されている研究公正に関する取組についてお尋ねします。

Q1-1 必須/Required

貴機関・組織では、公正な研究活動を推進するにあたり、機関・組織としての何らかの声明や倫理規定をお持ちですか。

- ある
- ない

Q1-2 必須/Required

貴機関・組織では、公正な研究活動を推進するにあたり、機関・組織としての何らかの行動規範をお持ちですか。

- ある
- ない

Q2-1

上記の声明・倫理規定(Q1-1)、行動規範(Q1-2)について、直近1年間での改定はありましたか。

- 改定をした
- 改定をしなかった

Q2-2 必須/Required

上記の声明・倫理規定(Q1-1)、行動規範(Q1-2)について、今後の改定等の予定はございますか。

- 改定等の予定がある
- 改定等の予定はない
- わからない・未定

Q3 必須/Required

貴機関・組織では、公正な研究活動を推進するにあたり、担当者や推進体制を置かれていますか。

- 置いている
- 置いていない

Q4

その他、公正な研究活動を推進するにあたり、貴機関・組織の取組に該当するものがございましたらチェックをお入れください。

- 所属する研究者や研究機関を対象とした研究公正に関する実態把握等の調査
- 所属する研究者や研究機関からの研究公正に関する相談や質問の受付
- 所属する研究者や研究機関への研究倫理教育等の教育・教材の提供
- 所属する研究者や研究機関に対する研究公正に関連した情報提供(セミナー、シンポジウム、その他情報発信等)
- その他

Q5-1 必須/Required

貴機関・組織では、公正な研究活動の推進に向けて、他の学会や分野と連携した横断的な取組をされていますか。

- 取組をしている
- 取組をしていない

Q5-2 必須/Required

今後、公正な研究活動の推進に向けて、他の学会や分野と連携した横断的な取組を予定されていますか。

- 取組予定がある
- 取組予定はない
- わからない・未定

Q5-3

公正な研究活動の推進を目的として他の学会や分野と連携した、横断的な取組や取組予定について、可能な範囲でご教示ください。

(最大500文字まで)

Q6

その他、公正な研究活動を実施する上で貴機関・組織として取り組んでいることがございましたらご教示ください。

(最大500文字まで)

パートII 責任ある学際研究の実施状況について

以下では、貴機関・組織として取り組まれている学際研究の実施状況、研究領域や分野についてお尋ねいたします。

Q7 **必須/Required**

貴機関・組織では、複数の学術研究領域を対象とした活動を実施されています。

(「学会名鑑」をご参照ください <https://gakkai.jst.go.jp/gakkai/>)

複数の学術領域や分野を横断した学際的な研究テーマ、学際領域での研究活動を実施されておら

れますか。

(「学際領域」とは複数の分野や学術研究領域を横断している ことを指します)

- はい
- いいえ
- わからない

Q8-1 必須/Required

貴機関・組織が取り扱う分野・学術研究領域に関連して、ここ数年で、分野内で類似/近接する学術研究領域への拡大など、カバーする学術研究領域を広げるような取組や動きはございますか。

(例:生命科学分野の研究において、従来は実験系の基礎生物学中心だったが、分野内でゲノムインフォマティクスまで対象を広げ、中核的な研究分野になりつつある など)

- ある
- ない
- わからない

Q8-2

よろしければ具体的な内容をお教えてください。

Q8-3 必須/Required

また、今後分野内で類似/近接する学術研究領域への拡大の動きはどのようになるとお考えですか。

- 増える
- 特段変化は生じない
- 減る
- わからない・未定

Q9-1 必須/Required

貴機関・組織が取り扱う分野・学術研究領域に関連して、ここ数年で、今までは対象としていなかった他の分野の研究テーマや課題を取り扱うような取組や動きはございますか。

(例:細胞工学での研究成果の社会実装を見据えて、実装に向けた規制や法的な対応など、法学的

な観点も踏まえて検討するといったように、生命科学分野の研究に人文社会学分野の研究要素が加わった 等)

- ある
- ない
- わからない

Q9-2

よろしければ具体的な内容をお教えてください。

(最大500文字まで)

Q9-3 **必須/Required**

また、今後、今までは対象としていなかった他の分野の研究テーマや課題への拡大の動きはどのようになるとお考えですか。

- 増える
- 特段変化は生じない
- 減る
- わからない・未定

Q10

今後、学際的な研究活動を推進する上では、分野や領域で異なる研究活動、研究文化や慣習を踏まえた対応がより重要になると考えられます。

貴機関・組織において、公正な研究活動を推進・実施する上で、学会内で複数の学術研究領域や分野を横断した学際的な研究を取り扱う上での難しさ、懸念、問題点や課題があればお聞かせください。

あるいは、こうした側面に対して実施している試みやうまく対応できている事例等がありましたらぜひお教えてください。

(最大500文字まで)

Q11

また、貴機関・組織において、公正な研究活動を推進・実施する上で、(特に分野の異なる)他学会との交流・連携において、研究風土や慣習の違いなどから生じる難しさ、懸念、問題点や課題があればお聞かせください。あるいは、こうした側面に対して実施している試みやうまく対応できている事例等がありましたらぜひお教えてください。

(最大500文字まで)

Q12 **必須/Required**

貴機関・組織が対象とする分野・学術研究領域では、(大学・研究所以外の)ステークホルダーとの交流や共同研究、その他連携した取組などを実施されていますか。

※ステークホルダー例:産業界、官公庁、NPO/NGO、地域住民 等

- 多く実施している
- 一部で実施している
- 実施していない
- わからない

Q13-1 **必須/Required**

上記に関連してお尋ねします。

貴機関・組織が対象とする分野・学術研究領域に関連して、特に、産業界(民間企業)との交流や共同研究、その他連携した取組などを実施されていますか。

- 多く実施している
- 一部で実施している

- 実施していない
- わからない

Q13-2

産業界(企業)との研究活動等を実施されている中で、責任ある研究活動(特に、公正な研究活動の推進)を実施する上での懸念、問題点や課題があればお聞かせください。また、責任ある研究活動に向けて既に取り組んでいる試み等がありましたらぜひお教えてください。

(最大500文字まで)

Q14-1 **必須/Required**

貴機関・組織が取り扱う分野・学術研究領域に関連して、特に、産業界(民間企業)以外のステークホルダーとの交流や共同研究、その他連携した取組などを実施されていますか。

- 多く実施している
- 一部で実施している
- 実施していない
- わからない

Q14-2

産業界以外のステークホルダーとの共同研究を実施されている中で、責任ある研究活動(特に、公正な研究活動の推進)を実施する上での懸念、問題点や課題があればお聞かせください。また、責任ある研究活動に向けて既に取り組んでいる試み等がありましたらぜひお教えてください。

(最大500文字まで)

Q15

その他、分野やステークホルダーをまたがった学際研究において、責任ある研究活動に向けて想定されうる研究公正上の問題点や課題、ご意見がありましたらぜひお教えてください。

(最大500文字まで)

Q16-1 必須/Required

昨今、科学技術・イノベーションと、人間や社会の在り方の関係が密接不可分になってきている現状を踏まえ、令和3年より「科学技術基本法」が「科学技術・イノベーション基本法」に変更され、人文・社会科学も科学研究の一部と位置づけなおされたり、イノベーションの創出や社会課題への取り組みが研究開発に求められるようになってきています。

貴機関・組織では、イノベーション創出や社会課題解決をはじめとする、学術研究と社会との関係性に着眼した研究推進や取組をされておりますか。

(例：SDGsに向けた研究推進を目的とするシンポジウムの開催、など)

- ある
- ない

Q16-2

よろしければ具体的な実施内容についてお教えてください。

(最大500文字まで)

Q16-3

また、今後、このような研究推進や取り組みのご予定がございましたらご教示ください。

(最大500文字まで)

Q17-1 必須/Required

近年求められているイノベーション創出や社会課題解決など、多様な連携を必要とし、かつ社会に影響を与える研究においては、産学連携研究における事業者の義務遵守のモニタリングなど、他分野の研究者やさまざまなステークホルダーとの調整、発生したことがないような課題や危機管理への対応が求められることも想定されます。

このような調整や課題への対応がする必要となることを見据え、貴機関・組織として、こうした研究活動の責任ある実施を促すための取組や仕組みなどはお持ちでしょうか。

- ある
- ない
- わからない

Q17-2

よろしければ具体的な実施内容についてお教えてください。

(最大500文字まで)

Q17-3 必須/Required

上記のような取組や仕組みを、今後設ける予定はありますか。

(例：学会としての危機管理ガイドライン策定、研究倫理についての継続的なスタディグループの設置、など)。

- ある
- ない
- わからない

Q18

本調査の内容について、また、本調査の対象である、学術分野を横断した研究や、学術界を越えてステークホルダーとの共創を必要とする研究における公正性(責任ある研究の推進)について、ご意見やご感想などございましたらぜひお聞かせください。

(最大500文字まで)

～アンケート調査はここまでです～

本調査へご協力いただき、どうもありがとうございました。

ご提供いただいた情報は、JST・RISTEXの令和3年度「学際・超学際研究における研究公正に関する調査」にかかる活動にのみ利用いたします。

また、次年度以降もJST・RISTEXによる、あるいは関係者(例えば採択研究プロジェクト)による調査へのご協力をお願いする可能性もあります。その際にもご協力いただければ幸いです。

JSTは、収集した情報の漏えい、滅失または毀損の防止その他収集した情報の適切な管理を行います。

JSTのプライバシーポリシーはこちら(<https://www.jst.go.jp/privacy.html>)をご覧ください。

【本件のお問い合わせ先】

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

社会技術研究開発センター(RISTEX) 研究公正調査担当

E-mail: kousei@jst.go.jp

TEL: 03-5214-0133 FAX: 03-5214-0140

〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ

<https://www.jst.go.jp/ristex/>

確認/Confirm

クリア/Clear

© 2018 Japan Science and Technology Agency.